

プランタでも育てられる みんなのコンテナ菜園

写真・文：園芸研究家●淡野一郎

ブロッコリー

栽培しやすい夏まき秋冬どり

頂花蕾（ちょうからい）・側花蕾（そくからい）兼用品種で長く収穫

ブロッコリーは、ケールを起源とするキャベツの仲間で、花蕾（からい）と呼ばれるつぼみやそれに続く茎の部分を取収穫する野菜です。

早生、晩生など品種の違いにより、花蕾になる花芽のできる条件は異なります。そのため、種まきはそれぞれの品種ごとの適期に行うことが大切です。例えば、温暖地の場合では、早生や中早生品種ならば7月中旬から8月中旬に、晩生品種ならば8月下旬から9月中旬に種まきします。

一方で発芽適温は高めで暑さには強いですが、出芽後の適温はやや低めです。育苗は暑い盛りなので、強い日射は日よけし、風通しを良くして、朝夕に水やりします。10月中ごろまでは害虫防除も徹底します。

品種には頂花蕾のみが大きくなる「頂花蕾用」と、頂花蕾の収穫後に側枝の花蕾も収穫できる「頂花蕾・側花蕾兼用」があります。頂花蕾・側花蕾兼用品種ならば年内から春まで長く収穫を楽しめます。



「緑嶺（りょくれい）」

根張りが良く乾燥や加温に強く形の良い花蕾が採れる頂花蕾・側花蕾兼用の中早生品種

【基本情報】

●分類：アブラナ科アブラナ属

●原産地：地中海東部沿岸

（2次中心※）地中海沿岸、ヨーロッパ北西沿岸

※原産地から伝播した先で、その環境に適応して多様化した場所

●発芽適温（地温）：25度前後

●生育適温（気温）：18～20度

●日当たり：日なた ●好適pH：6.0～6.5

【病害虫情報】

ヨトウムシ類：9～10月に発生する。葉裏に卵塊が、若齢幼虫は集団で生息するので、まとめて手で捕殺する。大きくなった幼虫は夜～早朝に植物体上にいるので捕殺する。BT剤など薬剤散布は、防虫ネットの上からすることで散布を減らせる。

ブロッコリーの栽培方法

1 種まき

セルトレー（128穴）へ育苗用の培養土を入れ、トレーを重ね上から押して約1cmのくぼみを作り、3～4粒の種をまく。パーミキュライトをかけ（写真1）、表面を平らにし、土が流れないように数回に分けて水やりする。

種まき後、トレーは防虫ネットをした育苗箱へ入れ、日陰か冷房の効いた室内に置く。3～4日して出芽が始まったら、明るい日陰、もしくは育苗箱に遮光率40%のネットをかけて日なたで育てる。

ポイント 育苗中は雨に当たらないようにする。



2 間引きと植え替え

種まき後2週間ほどして本葉が1枚になったらはさみを使ってトレー1穴当たり2株に間引く（写真2）。苗は2株のまま9cmポリポットへ植え替える（写真3）。



3 植え付け

本葉5枚前後で、ポリ鉢（直径39cm）にIB化成約40gを混ぜた土（25L）を入れ苗を植え付ける。その際、子葉に土がかからない程度に深めに植える（写真4）。たっぷり水やりし、根付くまでは乾ぎに注意する。

ポイント 植え付けは暑い日中を避け、夕方や曇りの日にする。



4 追肥

頂花蕾収穫までに2回追肥し、花蕾を充実させる。1回目の追肥は、早生や中早生品種で花芽ができる植え付け後14日前後（写真5）で、2回目は花蕾が見える頃にする。いずれも化成肥料（NPK各成分8-8-8）約12gを施し土と混ぜ、水やりしておく。



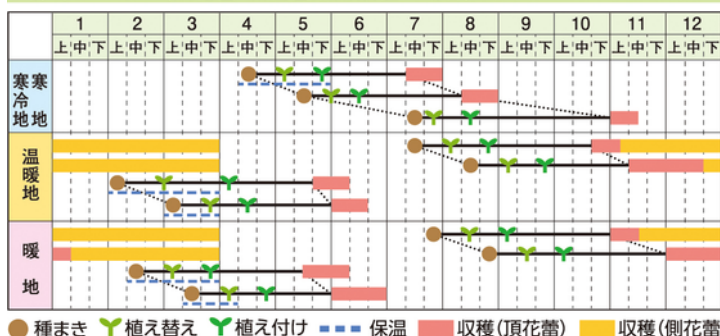
5 収穫

早生や中早生品種は10月下旬～12月に頂花蕾の直径が12～13cmになったら収穫する（写真6）。年明けに側花蕾が伸びてきたら花蕾の直径が4～5cmで収穫する（写真7）。

ポイント 頂花蕾収穫後は1、2回目と同量の肥料を施す。



栽培カレンダー（頂花蕾・側花蕾兼用品種の場合）



※温暖地を基準に記事を作成しています。